

第1年次*組 国語科学習指導案			
平成*年*月*日(*)		第*校時	
		場所 ***	
指導者 細田 広人			
育成する国語の能力	第1学年「C読むこと」(1)オ 第1学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」ア(ア)		
単元名	単元4「いにしへの心にふれる」		
単元目標	<p>○様々な古典の世界に触れることで、自ら進んで古典に親しもうとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○多読を行い、古典に表れているものの見方や古人の考え方をとらえ、古典の世界に対して自分のものの見方や考え方を広くすることができる。 (読む能力)</p> <p>○多読を行い、古典には様々な種類の文章があることを理解できる。 (言語についての知識・理解・技能)</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	竹取物語に関連する古典の原文やその口語訳を読み、自ら進んで古典の世界に親しもうとしている。	文章に表れているものの見方や古人の考え方をとらえ、古典に対するものの見方や考え方を広くしている。	多読を行い、古典には様々な種類の文章があることを理解している。
言語活動	グループでの古典作品紹介		
題材(教材)	蓬莱の玉の枝——「竹取物語」から(光村図書)		
単元(教材)について	<p>(1) 生徒観 小学校の頃に「竹取物語」の冒頭の音読や暗唱に取り組んできている。しかし、現代仮名遣いに直したり、口語訳をしたりすることは十分にはできない。学習意欲や知的好奇心も強く、古典を学習することに対して楽しみにしている生徒が多い。</p> <p>(2) 教材観 「竹取物語」は、小中学校及び高等学校で共通教材として扱われる古典作品の一つである。また、幼少時に「かぐや姫」として慣れ親しんだ生徒も多く、大まかなストーリー展開を知っていることから、グループでの話し合いや作品紹介をする活動も取り入れやすく、入門期の古典学習に適している。</p> <p>(3) 指導観 6年間の系統的な古典学習指導を意識した上で、グループでの音読や作品紹介等、多読の工夫を行い、主体的に古典の世界に親しめるようにする。</p>		
指導計画	主な学習活動		主な評価
(第1次) 第1～2時	・「竹取物語」の冒頭を声に出して読み、暗唱する。		・「竹取物語」の冒頭を声に出して読み、暗唱している。 (読む能力)
第3時	・「うつくしきもの」を読み、「うつくし」の意味についてグループで考えて、発表する。		・「うつくしきもの」から、「うつくし」の意味についてグループで考え、発表している。 (読む能力)
第4～5時	・五人の貴公子の求婚の場面から、くらの皇子のついたうその巧妙さについて考えて、発表する。		・登場人物の人間性について考え、くらの皇子のうその巧妙さについて、自分の考えを発表している。 (読む能力)
(第2次) 第6～7時	・自分が興味や関心をもった古典の文章や		・古典の文章やその内容に興味や関心をも

	その内容について、調べてグループの中で紹介する。	ち、グループの中で進んで紹介し合おうとする。 (関心・意欲・態度)
(第3次) 第8～9時 第10時	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の訓読を覚え、声に出して読む。 四コマ漫画を読み、気に入った故事成語について紹介文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢文訓読の基本ルールを覚え、声に出して読んでいる。 (言語についての知識・理解・技能) 選んだ故事成語について紹介するために、分かりやすくまとめている。(読む能力)

本 時 案 (第 3 時)		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「うつくし」の意味について、話し合い、考えを交流しながら深めようとしている。 (関心・意欲・態度) ○「うつくしきもの」を読んで古語における「うつくし」の意味を考えることができる。 (読む能力) ○口語訳と古語辞典を用いながら古語と現代語の言葉や意味の違いについて考えることができる。 (言語についての知識・理解・技能) 	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 学習のねらいや進め方をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しをもたせる。 前時で考えた自分の思う現代の「うつくしいもの」と「かわいいもの」を発表させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 当時の「うつくし」の意味についてグループで考えて、発表する。 </div>		
2 「うつくしきもの」を読み、具体的に「うつくしきもの」として述べられている事例を見つける。	<ul style="list-style-type: none"> 清少納言の視点から当時の「うつくし」の捉え方について考えさせる。 「うつくしきもの」(枕草子151段)は、原文と口語訳の両方が書かれたものを示し、必要に応じて古語辞典を使うようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口語訳と古語辞典を用いながら古語と現代語の言葉や意味の違いについて考えている。(言語についての知識・理解・技能)〈観察〉
3 「うつくし」の意味について、グループで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 4人のグループで話し合っ、て、「うつくし」を当時はどのように捉えていたのか、互いの考えを交流し検討させる。 司会者を立て、話し合いの手順について事前に指導して、各グループが司会者を中心に主体的に取り組めるようにする。 	
4 グループごとに、当時の「うつくし」の捉え方について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの代表が学級全体で発表をして、考えを交流できるようにする。 単なる事例の紹介や原文からの抜き出しではなく、現代との意味や言葉の違いについて比較しながら発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 当時の「うつくし」の捉え方について考えている。(読む能力)〈観察・ノート〉
5 「うつくしい」の意味を表す古語を探す。	<ul style="list-style-type: none"> 当時の「うつくしい」の意味を表す古語についても古語辞典から探させる。 	
6 自己評価シートを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習をふり返り、まとめさせる。 学習シラバスで次時の学習を確認する。 	

別添資料2 自己評価シートの生徒記入例

時間	自己評価	学習内容	ふり返り	古典作品の記録
10/21	◎B・C	古典について 知ろう	いろは歌を使い 典にふかしく中で 竹取物語と浦島太郎 の関わりを 調べる	いろは歌 竹取物語 浦島太郎 御伽草子
10/27	◎B・C	古典の世界に 慣れ親しむ	竹取物語を通して 語彙ができた古語語 典で調べることもおもしろ い	竹取物語
10/29	◎B・C	求婚した 五人の 貴公子 くらもちの皇子 の噂を 見破ろう	くらもちの皇子が やむを得ず あきらめた あきらめた あきらめた	枕草子 あきらめた あきらめた
10/30	◎B・C	古典作品を 読もう	竹取物語と 一編に上る と一編に上る	竹取物語
10/31	◎B・C	読んで古典 の発表	自分の発表と他の 人の発表が 発表の発表 発表の発表	〃
11/1	◎B・C	漢文訓読の 基本ルール 四コマまんが で故事成語	漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて	矛盾 四面楚歌 守株 守株

時間	自己評価	学習内容	ふり返り	古典作品の記録
10/20	◎B・C	導入	よめな(歴史的仮名遣い) からたの(仮名遣い) 漢文の仮名遣いと現代漢文 の違いを調べる	いろは歌 竹取物語 御伽草子
10/25	◎B・C	古記と現代語の 意味の違いに ついて考える	自分が知らないことは 調べる 調べる 調べる	〃
11/6	◎B・C	求婚した五人の 貴公子について まとめる	くらもちの皇子は 噂の巧者について 話し合う	枕草子 あてなるあ
11/10	◎B・C	くらもちの皇子の 噂の巧者について 話し合う	自分の興味や関 心をもった古典に 調べる	万葉集 古今和歌集
11/11	◎B・C	くらもちの皇子の 噂の巧者について 話し合う	自分の好きな作品を 紹介する 紹介する 紹介する	今昔物語集
11/12	◎B・C	自分の興味や関 心をもった古典に 調べる	アルファの中で調 べた古典について 発表する	〃
11/17	◎B・C	アルファの中で調 べた古典について 発表する	漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて	矛盾 推敵
11/21	◎B・C	漢文訓読の基本 ルールを確認して 漢文を声に出して 読む	漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて	矛盾 四面楚歌
11/27	◎B・C	漢文訓読の基本 ルールを確認して 漢文を声に出して 読む	漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて	四面楚歌 矛盾(漢文)
11/30	◎B・C	漢文訓読の基本 ルールを確認して 漢文を声に出して 読む	漢文の基本的な ルールについて 漢文の基本的な ルールについて	〃

別添資料3 声に出して読む際の工夫例（音読チェック表）

音読チェック表（音読をする人）

今は昔、竹取の翁といふものありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、よるづのこ
とに使ひけり。名をば、さぬきのみやつこ
となむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋あ
りける。あやしがりて、寄りて見るに、筒
の中光りたり。それを見れば、三寸ばか
りなる人、いとうつくしうてあたり。

（「竹取物語」）

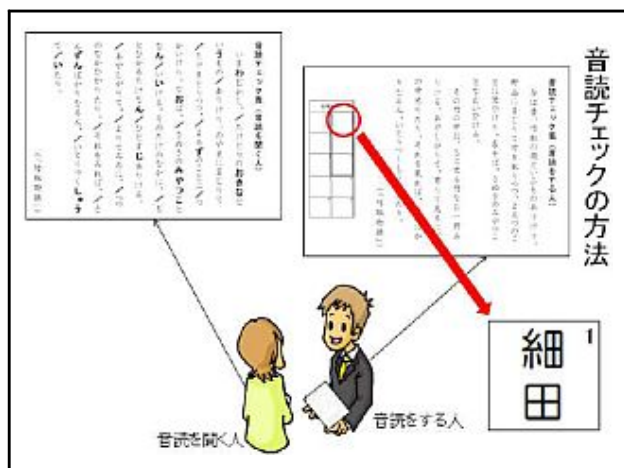
合符サイン	
6	1
7	2
8	3
9	4
10	5

音読チェック表（音読を聞く人）

いまわむかし、／たけとりのおきなと
いうもの／ありけり。のやまにまじりて
／たけをととりつつ、／よるずのことに／つ
かいけり。なおば、／さぬきのみやつこと
なん／いいける。そのたけのなかに、／も
とひかるたけなん／ひとすじありける。

／あやしがりて、／よりてみるに、／つつ
のなかひかりたり。／それをみれば、／さ
んずんばかりなる人、／いとうつくしゅう
て／いたり。

（「竹取物語」）



別添資料4 「うつくしきもの」本文とワークシート記入例

35

「うつくしきもの」(二五一段)

うつくしきもの、瓜にかきたるちこの類す
すめの子の、**二**、をとり来る。二つ
三つばかりなるちこの、急ぎてはひ来る道だ。
いと小まきちりのありけるを、目もとに見つけ
て、いとをかしげなる指にとらへて、大人など
に見せたる、いとうつくし。頭は厄までなるち
この、目にはおほへるを、かきはるちこの、う
ちかたぶきてものなど見たるも、うつくし。
大きにはあらぬ殿上つらはの、まうせま立
てられてありくもうつくし。をかしげなるちこ
の、あからさまに抱きて逃げしうつくしむほど
に、かいつきて来たる、いとうつくし。
二の類度。はちすの浮き葉のいと小まきを、
池よりとりあげたる。あふひのいと小まき。何
も何も、小まきものはみなうつくし。
いみじう白く肥えたるちこの、二つばかりな
るが、**二**のうすものなど、衣長にて、たすき
結ひたるがはひいでたるも、また、短きが袖が
ちなる着てありくも、みなうつくし。八つ九つ
十ばかりなどの男児の、声はそさなげにてふみ
踏みたる、いとうつくし。
三のひなの、足高に、白うをかしかげに、衣
短なるさまして、ひよよとかしがましう鳴
きて、人のしりまきに立ちてあぐくも、をかし。
また親の、ともにつれてたちて走るも、みなう
つくし。
かの子。薄着のつば。
あひらの男。薄着のつば。あひらかわいらしい。

かわいらしいもの、瓜にかいた幼児の類。すす
めの子が、「人」の類の類をまわって啼ぶと、おほるよ
うに啼つて来る。二つか三つかちの幼児が、急いで逃
て来る途中で、たいそう小まきちりがあつたのを、目もと
に見つけて、たいそうかわいらしい指でつまんで、おとな
などに見せているようすは、まことにかわいらしい。髪を
かかつたおほいそいでいる幼児が、目元の毛がおおいかま
つてゐるのを、払いのけもしないで、さよとを指をかき
何かを思ひ出しているのかわいらしい。
大きにはない殿上着が、りっぱな薄物を着せられて歩
まわるのかわいらしい。かわいらしい感じの幼児が、ちょ
と抱いて逃げせ、あやしているうちに、抱きついで寝てし
まう、それもたいそうかわいらしい。
本編さまの道草、葉の浮き葉のごく小さいのぞ、池から
とりあげたの。葉の葉のたいそう小さいの、かわいら
らしい。なんでもかでも、小さいものはみなかわいらし
い。
たいとう色白でかたどっている赤ん坊で、二つくらいなの
が、**二**のうすものなど、袖巻が長くて、袖をひもでく
りあげている子が、這い出て来るのも、また、短い着袖で
袖ばかり自立つのを着て歩きまわるのも、みなかわいらし
い。八つ、九つ、十くらいなどの男の子が、子どもっぽく
声で響きを踏んでゐるのも、まことにかわいらしい。
四の類が、足高に、(別巻の)白く染し、ちよ
と薄物が短いとたたかつて、ひよよとあぐくましく
啼いて、人のあと先に立ちてうろろするのかわいらしい。
また親が、いっしょに連れだつて走っているのも、みなか
わいらしい。
あひらの男。薄着のつば。あひらかわいらしい。

(日英社「新要説 枕草子」より)

竹取物語 No.2 「うつくし」の意味は?	
1 「うつくし」の意味 現代の意味 古語の意味	2 「枕草子」(二五一段)を読んでみよう。 3 当時の「うつくし」の考え 4 自身の考え 5 グループの考え 6 メモ

「うつくしきもの」ワークシート

竹取物語 No.2 「うつくし」の意味は?	
1 「うつくし」の意味 現代の意味 古語の意味	2 「枕草子」(二五一段)を読んでみよう。 3 当時の「うつくし」の考え 4 自身の考え 5 グループの考え 6 メモ

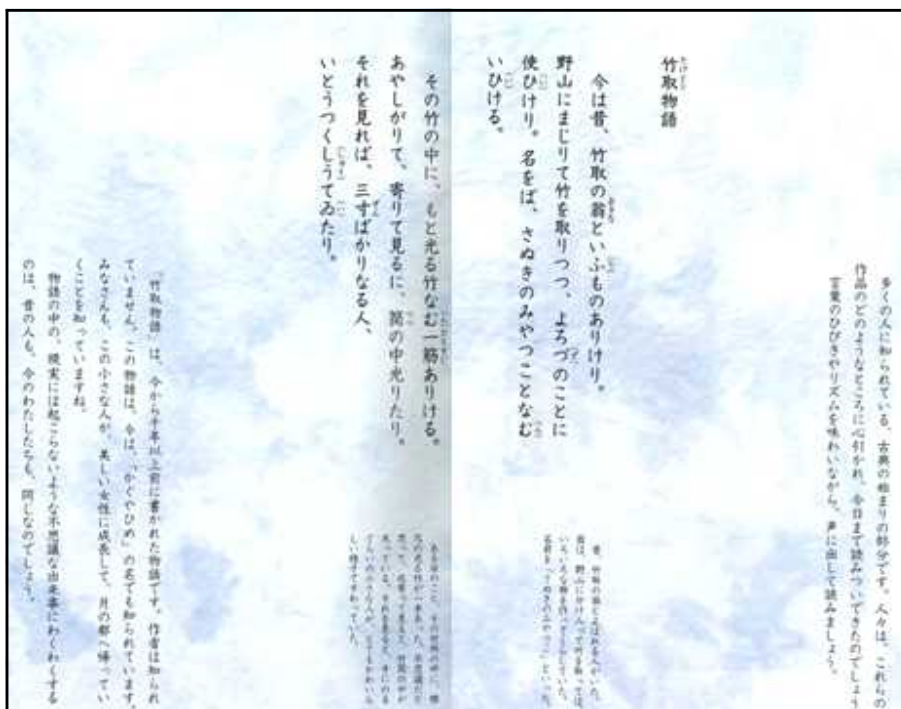
生徒記入例

1 「うつくし」の意味
 現代の意味: うつくしきもの、可愛らしいもの、美しいもの、など。
 古語の意味: うつくしきもの、可愛らしいもの、美しいもの、など。

2 「枕草子」(二五一段)を読んでみよう。
 3 当時の「うつくし」の考え
 4 自身の考え
 5 グループの考え
 6 メモ

生徒記入例

別添資料5 「竹取物語」(小学校, 中学校, 高等学校)の教科書掲載箇所と学習課題



光村図書「国語五 銀河」より(小学校)

【学習課題】1 言葉のひびきやリズムを味わいながら、声に出して読みましょう。



光村図書「国語1」より(中学校)

【学習課題】1 古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読しよう。
 2 現代語訳や現代の文章と古典の文章とで異なる部分を確認しよう。
 3 「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動について考えてみよう。

なよ竹のかぐや姫

今は竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろづのことに懐ひけり。名をば、さぬきの翁と名をいひける。その竹の中に、もと光る竹を二筋ありける。悟しがりて、寄りて見るに、箇の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくつくしてありたり。

翁言ふや、「われ朝こと夕ことに見る竹の中におはするにて知りぬ。子になりたまふべき人なり」として、手にうち入れて、家へ持て来ぬ。妻の願に預けてやしなはす。うつくしきこと、限りなし。いと幼ければ、籠に入れ、てやしなふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけて、俄に竹取るに、籠を捨てて、よことに、黄金ある竹を見つゝること重なりぬ。かくて、翁やうやう盛かになりゆく。

この児、やしなふほどに、すくすくと大きになりまゐる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどとかくして髪上げさせ、養育す。松のうちよりもいほさす、いつまやしなふ。

この児のかたのきよなること世になく、屋のうちには隠す所なく光満ちたり。翁、心を盡しく苦しきときも、この子を見れば苦しきこともやみぬ。寝立たしきことも思ひけり。

翁、竹を取るに、久しくなりぬ。いさほひ、旅の者になりけり。この子いと大きになりぬれば、名を、御家宮の杖田と呼びて、つけます。杖田、なよ竹のかぐや姫と、つけつ。このほど、三日、うちあげ遊ぶ。よろづの遊びをせしむ。男はけさはす呼び集へて、いとかしこく遊ぶ。

世界の男、貴なるも、様しきも、いかでこのかぐや姫を得てしか、見てしかなど、言に聞きめでて恋ふ。



① 本ぬきの翁（さぬきはは）は「道」は、「こ」では「み」や「こころ」の略。

② 三寸、長さの単位。「寸」は約三センチメートル。

③ 翁は「おきな」といふが、この「子」は竹で育つる「孫」(かご)を指したしやれ。

④ よ竹の節と節の間。

⑤ 髪上げ、それまで束ねていた髪をの髪を、成人女性の髪型に整い上げる儀礼。「二三歳前に竹う成人の儀式をいう。

⑥ 翁は、成りて翁の後にまじりて成人女性の正装、髪を束ねて育ける女竹の成人の儀式を「養育」といひ、髪上げと同様にいう。

⑦ 翁とはり、それより、中内の巫女や出陣ののちも残すける年。現在、京都府下津守(三笠)や、一帯は、「道場」を指す。

⑧ 杖田、「家田」は、名。

⑨ このほど、ちぎりの儀式をいひ、男はけさは、声をあげ、遊戯を唱へしこめをさせる。

⑩ けしき、身分で、すに、様かし、貴人。

⑪ 見しがる、うつくし、いづく、かたち、よきなり、盛なり、見る、めづ、悦ぶ。

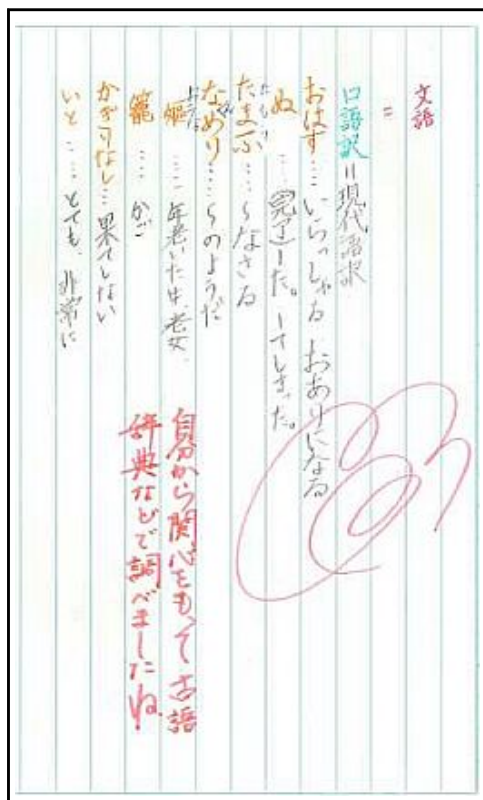
大修館書店「国語総合」(古典編)より(高等学校)

- 【学習課題】
- 1 かぐや姫の生立ちと成長の様子を、本文に即して整理してみよう。
 - 2 かぐや姫が翁の子になってから、翁の生活はどのように変わったか。それに当たる三つの段落の要点を、それぞれまとめてみよう。

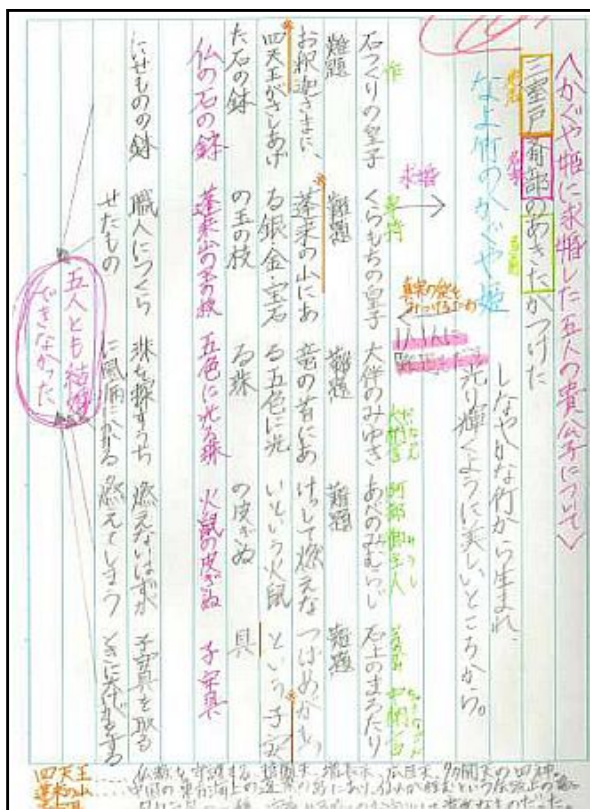
別添資料6 興味をもって生徒が自分で古典学習を深めた例



「浦島太郎」の続きを自分で調べてきた生徒



「古語辞典」を自分から引く生徒



「求婚場面」を自分でまとめ直した生徒



古典学習コーナーを利用する生徒

別添資料7 事前と事後の古典学習に関する生徒への意識調査（自由記述）

（平成26年10月，12月実施 古河中等教育学校 第1年次120名）△上昇 ▼下降

	これから先の古典学習への関心とその理由	
10月 (学習前)	とてもある 34名 (28.9%)	まだ知らない古典に触れてより多く視点から感じてみたいから／自分が知らない作品が分かると思うから／当時人々の人情や様子について知りたいから／書いてある言葉の意味を知りたいから／古典や和歌が好きだから
	まあまあある 60名 (50.0%)	昔の人はどのような考えだったのかを知りたいから／小学校の時の学習がどのように広がっていくのか興味があるから／今まではざっと読むだけだったので，深めていきたいからで／古文はなじみがなくて新鮮なので
	ふつう 21名 (17.5%)	難しそうだから／自分が古典を理解できるか不安だから／テストが大変になると困るから／音読はあまり好きでないから／暗唱する自信がないので／読むのは楽しいけれど，何が書いてあるか分からないことがあるから
	あまりない 5名 (4.2%)	暗記するのが苦手だから／より深くなると難しくなると思うから／昔のことに興味がないから／古典には興味がないから／まだ古典がどのようなものか分からないから
12月 (学習後)	とてもある 51名 (42.5%) △	もっと色々な古典作品を読んでいくことがとても楽しみだから／漢文が読めた瞬間が忘れられない，もっと難しいのも読んでみたいから／昔の人が考えていることがたくさん読むほどよく分かるから／今回の活動がとても楽しかったので，これからも楽しみだから／昔話よりも深く昔のことが知ることができるので／和歌や百人一首について学びたいから
	まあまあある 58名 (48.3%) ▼	たくさん古典の知識を身に付けたいから／小さい頃に読んでいた昔話のようにストーリーがおもしろいからもっと読みたいので／自分の知らない物語を知ることができるので／たくさん読むことで少しずつ古典が好きになれたから／また図書館で古典を読みたいと思ったから
	ふつう 7名 (5.8%) ▼	これからたくさんの古典に出会うことは楽しみだけど，ついていけるかが不安なので／授業では読めるけれど，テストができるか不安だから
	あまりない 4名 (3.3%) ▼	今の古典ですら難しく感じるのに，これ以上難しくなったら試験が心配なので／話はおもしろいけれど，昔のことに興味がないから／係り結びなどを覚えるのは大変だから

生涯にわたって古典に親しむためにはどうすればいいか（学習後の自由記述）
普段から興味をもってたくさん古典を読んでみる／昔話や言葉など，身近にある古典に関するものを見つけていく／昔の人の生活や文化を少しずつ理解していく／古典作品を日頃の読書に加えていく／おもしろい古典を見つけたら，調べて色々な人に伝えていく／あまり難しく考えすぎないで，小説を読むような感覚で気軽に読んでみる／図書館で古典を手にとってみる／焦らずゆっくり慣れていく／もっと古典の知識や文法を勉強して内容を理解できるようになると親しめると思う／先生が言っていた「古典の日」にみんなで古典を読むようにすればいい／古典の舞台になっている場所に行ってみる／いとこの小さい子に昔話から読んであげる／11月1日の古典の日に家族で古典を読む／読書の選択肢に古典を加えてみる／とにかくたくさん古典を読んでみる／暗唱できる古典作品を増やしてみる／授業で古典の知識を学ぶ